

平成22年3月の解説（週間天気予報）

【3月の天候状況】

上旬は低気圧が短い周期で次々と本州付近を通過し、全国的に曇りや雨の日が多くなりました。気温は、旬前半は暖かい空気に覆われたため高くなりましたが、後半は寒気が入ったため低くなりました。中旬は、天気は数日の周期で変わりました。暖かい空気が入ることが多く、中旬をとおして気温は高くなりました。下旬は、21日に低気圧が北日本で発達したため全国的に大荒れの天気となり、北海道を中心として記録的な暴風となりました。また、低気圧の通過後は、全国で黄砂を観測しています。旬中頃に本州の南岸を進んだ低気圧の影響で、東・西日本では曇りや雨となり、その後寒気が流れ込んだため全国的な低温となりました。

月を通しては、低気圧や前線の影響を受けた日が多かったため、日照時間が北日本と東日本を中心に平年よりかなり少なくなり、月間日照時間の最小値を更新した気象官署がありました。また、降水量は東・西日本を中心に平年よりかなり多くなり、月降水量の最大値を更新した気象官署がありました。一方で、高気圧に覆われることの多かった（あるいは低気圧の影響を受けることの少なかった）南西諸島では、日照時間は平年より多く、降水量は平年よりかなり少なくなりました。気温は東日本から南西諸島にかけて平年より高くなりました。

【3月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7日目の平均）は全国平均では例年^(注)より5ポイント高い73%でした。関東甲信、東海地方と近畿、九州北部、沖縄地方では5から10ポイント高くなりました。最高気温（2～7日目の平均）の予報誤差は、北日本で例年より0.4℃小さくなった他はほぼ全国的に例年並みで、全国平均は例年と同じ2.7℃でした。最低気温（2～7日目の平均）の予報誤差は九州、沖縄地方で例年並みだった他は0.2℃から0.3℃小さく、全国平均では例年より0.2℃小さい2.1℃でした。

^(注) 例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【5月の週間天気予報の利用にあたって】

5月は移動性高気圧に覆われて晴れる日が多くなりますが、日本の南海上に前線が停滞するようになるため、南西諸島では一足早く梅雨に入ります。平年の入梅は沖縄地方では5月8日頃、奄美地方では5月10日頃です。この前線が北上して一時的に本州付近に停滞すると、西日本や東日本でも数日の間、雨や曇の日が続くことがあり、場合によっては大雨となることもありますので注意が必要です。天候に左右されやすい屋外の活動等の予定や準備には、週間天気予報を利用して下さい。